

桐生市議会 公共施設のあり方等調査特別委員会 行政視察報告書

視察都市：神奈川県 大和市（人口：243,308人 令和5年11月1日現在 面積：27.09km²）

視察期間：令和6年1月17日(水) 10:00～11:30

訪問先：大和市文化創造拠点・シリウス

〒242-0016 神奈川県大和市大和南1丁目8番1号 Tel 046-263-0214

参加者：福島賢一 石渡宏明 久保田裕一 人見武男 新井達夫 周藤雅彦 丹羽孝志

視察項目：図書館機能を併せた文化複合施設「大和市文化創造拠点シリウス」について

◎大和市の概要：

大和市は、人口約24万人で、神奈川県中央付近に位置し、細長い形をしており面積は27.09km²です。東京都や横浜市に隣接・都心から40km圏内にあり、小田急江ノ島線や東急田園都市線、相鉄本線など3つの鉄道が東西南北に走り、複数の鉄道が通過しており、8つの駅があり周辺都市へのアクセスも良好な地域です。また、道路網も国道16号線、246号線および467号線のほか県道4線が縦横に走り、交通の利便性に恵まれた便利なまちである。 <https://www.city.yamato.lg.jp>

◎視察概要

視察項目：図書館機能を併せた「大和市文化複合施設シリウス」の見学

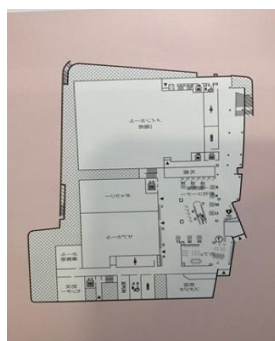
指定管理者 やまとみらい 総括責任者 片山 鑛蔵 様

◎説明趣旨

“「日本一の図書館」があるまち”を誇る神奈川県大和市に建てられた大和市文化創造拠点シリウスには、図書館は勿論のこと、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場を中心とした文化複合施設の6階建ての施設ですが、1F～6Fまで全階それぞれにコンセプトがあり、居心地の良い市民の居場所づくりの提供がなされている。



1Fには、文化ホールがあり、感動が生まれる感性と創造の場を提供するとのコンセプトで、約一千人の席が確保されており、災害の時などは避難場所として活用される。また、隣のエントランスホールには図書の設置やディスプレイがなされ、その一角には民間施設(スターバックス)などが設定されている。ちなみに、施設全体に対する市有施設と民間施設との割合は、95:5の割合になっている。



1F ホール平面図



文化ホールフロアー



吹き抜けエントランス、ギャラリー、その他(総合案内など)



スターバックス(民間施設)

2Fは、楽しく語り合う市民交流のフロアとしてのくつろぎの空間が提供されており、ご友人との歓談やビジネスの打ち合わせなど、様々な用途で使用できる。また、無料ラウンジや市民交流ラウンジや、大和市役所大和連絡所、大和イベント観光協会、が設置されている。



無料ラウンジ



市民交流ラウンジ



大和市役所大和連絡所



大和イベント観光協会

3Fは、思い切り遊んで学ぶというコンセプトにより、ちびっこ広場やこども図書館、その他、常時1名の保育士が在中している保育室、こどもシアターブース、授乳室、オムツ替え室、マルチスペース、多目的室が設置され、親子で楽しく過ごせる空間になっている。



こども図書館



読み聞かせのへや



条例で定められた料金

4Fは、くつろぎながら本に親しむ健康に特化した図書館ですが、健康コーナー・健康テラスでは、ほぼ毎日様々なイベントが行われている。その他にも、中高生向けのコーナーやシアターブース、まんが・新聞・雑誌コーナーなどがあり、約1万冊の図書が確保され、予約本コーナー、自動返却機も設置されている。閲覧席でのくつろぎは勿論のこと、読書テラスもあり、そこでの食事も可能で、開放的な空間も確保されている。



健康に関する図書コーナー



自動返却機・返却室内部



予約本受取コーナー



読書テラス

5Fは、あらゆる情報が集まっており、レファレンス(照会・参照)専門の職員が、日頃の疑問を資料やインターネット情報を使って、解決の手助けをしてくれる。もの静かな本来の図書館が設置されている。



レファレンスカウンター



読書室

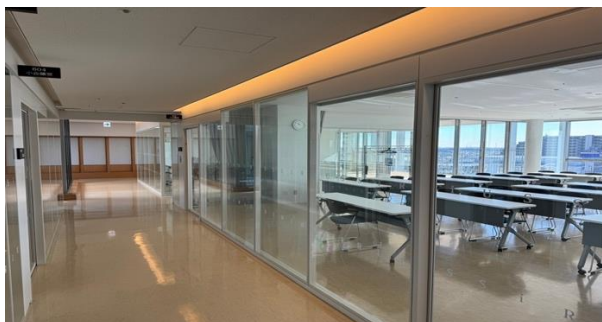


地域資料コーナー

6Fはフリースペースが充実している生涯学習センターで、集い・交流・学びのフロアであり、様々な沢山の方々が集い会っている。



市民交流スペース ぷらっと大和



会議室・その他(文化創造室・調理実習室・講習室)

このようなシリウスは、市民の居場所づくりとして作られ、大和市民をはじめ全ての方にご利用いただける使用に関してのルールはなく利用者のマナーを重視しており、心身のリフレッシュや地域交流の場として、朝9時から夜9時までの利用時間帯で、1日過ごしてもらうことを考えた施設である。

<https://yamato-bunka.jp>

このシリウスへの見学会は、全国から殺到しており、開設から7年までに861団体の見学会があり、そして、これまでの来場者は1880万人で、1年間に換算すると約230万人が来場している。ここを管理運営しているのが、指定管理者“やまとみらい”であるが、この“やまとみらい”は、6社((株)図書館流通センター、サントリーパブリーシティサービス(株)、(株)小学館集英社プロダクション、(株)明日香、(株)ポーネルド、横浜ビルシステム(株))で構成されている民間企業からなる共同事業体ですが、この“やまとみらい”では、シリウスの他にも7つの文化施設を管理運営しており、広報誌や説明を受け見ていく中、積極的に様々なイベントなどに企画・運営に取り組んでいる。



◎質問事項

【質問1】

シリウスの利用状況については？

【答え1】

快適な施設利用を目指し、現状の利用者の割合としては、3分の2が市内在住者で、3分の1が市外在住者の利用者である。時間帯では、午前中から3時までが高齢者や若い子育て世代。3時以降が高校生。夕方からは市外にお勤めの方が市内の自宅に戻る途中に立寄る。休館日は、12月31日と1月1日の2日だけであとの年間363日は開館している。

【質問2】

シリウスの設備費用について、大和市が出している施設整備の割合は？また、ランニングコストは？

【答え2】

整備費用は国・県・市の補助が65億円、組合が148億円を負担し完成後に147億円で市が保留床を購入しているという形で、本棚や貸出しシステム、図書の購入なども含めるとトータル200億円規模の大事業である。

【質問3】

シリウスの利用料金については？

【答え3】

利用料金は指定管理者が支払っている。金額で言うと、指定管理料(10億6千万)の12%~13%が利用料金になる。

【質問4】

シリウスの管理運営における現状の課題と今後の展望は？

【答え4】

現状の課題として考えていることは、現状の駐車場が普通乗用車 55 台・身障者用 3 台・バイク (125cc 超)15 台で、少ないこと。また、利用者数が土日で 11000 人。平均 8000 人の利用者があるが、利用者の多い 1 月 2 月は、高校生など席が取れない場合があり、交代制にするなど対応に工夫を凝らしている。

今後の展望としては、現在、8 年目になるが、この建物が 20 年、30 年とたってくると経年劣化・老朽化していくが、いろいろな事業を展開して、利用者のニーズに応じていき、それを補っていかうと考えている。



◎所感及び当局への提言：

今回、神奈川県大和市にある文化創造拠点シリウスに視察に行き参りましたが、大和市は、人口約24万人で東京都や横浜市に隣接・都心から40km圏内にあり、3つの鉄道が東西南北に走り、8つの駅があり、道路網も充実し周辺都市へのアクセスも良好な地域で、言うまでもなく都会でありました。

そうした環境に建てられた大和市文化創造拠点シリウスは、相模鉄道本線と小田急江ノ島線の2路線が乗入れる中心駅大和駅から徒歩3分のところに位置しており、相模鉄道が地下化された空間を活用して作られた駅から続くプロムナードに面した好立地にあります。

シリウスは、図書館は勿論のこと、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場を中心とした文化複合施設の6階建ての大きな施設で「市民の心地よい居場所」になっており、市民交流ラウンジや親子で楽しく過ごせるちびっこ広場、くつろぎながら本に親しむ健康図書館、食事も可能な開放的な読書テラス、レファレンス(照会・参照)専門の職員が、日頃の疑問を資料やインターネット情報を使って、解決の手助けをしてくれ、また、心身のリフレッシュや地域交流の場で、1日過ごすことができる施設であり利用者が大変に満足できる施設で、年間約300万人の利用があり、土日では約1万1千人の利用があるという驚くほどのニーズのある利用者の多い施設で、まだまだスペースの拡大を求めるお声は絶えないとのこと。

そして、このシリウスには、1F～6Fまで全階それぞれにコンセプトがあり、居心地の良い市民の居場所づくりの提供がなされており、1Fの文化ホールには約一千人の席が確保され、災害の時などは避難場所として活用されている。また、隣のエントランスホールの一角には、コーヒーの香りが漂う民間施設のスターバックスが存在し、市有施設とは思えない現代風トレンド感を醸しだしており、洗練されている。なお、施設全体に対する市有施設と民間施設との割合は、95:5の割合になっており、一日中快適に過ごせる場所だと感じました。

このようなシリウスは、立地的にも施設装備にも非常に充実して素晴らしい居場所となっておりますが、シリウスの事例をそのまま取り入れることは、桐生市における立地条件や実際の施設整備やランニングコストにおいて問題が起こると考え、環境的にも財政的にも不可能だと思います。しかし、PFIなど民間投資による公共施設の整備手法を採用や、有体公共施設を活用した施設整備など、整備費用を圧縮するためのアイデアは多様にあると考えます。

そして、コンセプトにしている「市民の居心地の良い場所づくり」という基本的な考えや各階のコンセプトについて、また、ゾーニング・SNSやロコミによる集客力の強化や滞在型の施設運営や自動化による人件費の圧縮など、より良い図書館整備に向けた調査研究を加速していただくことを要望いたします。

以上